

越知町連携推進部会

令和6年度 AIドリル研究部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

家庭学習や個別最適な学びにかかる効果的な活用研究

2. 具体的な連携活動内容

- (1) 各学年、1人のデータを見取り、その児童・生徒に対する手立てを行う。
- (2) 全体のデータを、同一学年集団の比較を行う。(上位層・中間層・下位層)

3. 組織構成

AIドリルのデータの見取り 担当学年

小5→井口 小6→池本 中1→安井 中2→大石 中3→伊藤 総括→須内

4. 活動経過

	月/日(曜)	場所	内 容
1	5/1(水)	越知小	テーマの設定、年間活動計画
2	1/14(火)	越知小	活動のまとめ

5. 成果と課題(取組評価)

成果(中学校)

- (1) 金曜に課題を配信(配信した課題と同じ範囲のテストを木曜日に実施)
→すららテストにおいては社会と数学の正答率が向上した。
- (2) 抽出した生徒のすららのテストと期末テストの結果の変容を基にした分析
→中間層に関しては、すららの正答率の変容と期末テストの点数の変容の整合性がとれなかったため、検証不能。上位層に関しては、すららの正答率の変容と期末テストの点数の変容の整合性がとれたため、すららの取組が定期テストの成果につながったと言える。
- (3) 家庭学習でスタディログを活用したデータ分析
→データ分析対象生徒(1年:Yさん 2年:Nさん 3年:Kさん)については、分析教科の定期テストの点数が向上した。

1年:Yさん…+32P 2年:Nさん…+19P 3年:Kさん…+4

- (4) 小中すらら交流

→交流の振り返りでは、「小学校の学習内容の振り返りができたのは良かった。」といった回答が多かった。

課題(中学校)

- (1) 金曜に課題を配信

木曜に配信した課題と同じ範囲のテストを実施

→社会・数学以外の教科においては、正答率はあまり向上しなかった。原因が不明で、今後の対策は要検討。

- (2) 抽出した生徒のすらの期末テストの結果の変容を基にした分析
 - 低位層に関しては、すらの正答率は下がっているのに、期末テストの点数も下がった。今後は、教員がついて支援をしながらできるようになったといった実感を持たせていく。
- (3) 家庭学習でスタディログを活用したデータ分析
 - 家庭学習に対して個人による意識の差が大きく、生徒が必要を感じていないことが顕著に表れている。今後は、学習委員会から呼びかけを継続する。
- (4) 小中すらら交流
 - すらの学習に意欲的でない児童もあり、学習が進まず相乗効果が得られなかった。今後は、双方にとって効果が生み出せる手法を再度検証していく必要がある。

活用事例（小学校）

(1) 家庭学習での活用

- ア ラーニングデザイナーを使用し、学習進度に応じて復習予習の課題に計画的に取り組んだ。
- イ 社会科・理科の自主学習に取り組み、間違ったところや理解を深めたいところを自主学習ノートにまとめる主体的な姿が見られるようになった。
- ウ スタディログを活用した自己分析
 - 中学生からスタディログの見方や、自己課題の把握の仕方をアドバイスしてもらった。小学生から中学校ではどんな学習をするのか等質問したりする姿も見られた。
- エ 11月には、中学生からアドバイスをしてもらったことを活かして、自分たちでスタディログを見て、学習内容を決定する授業を行なった。

成果（小学校）

- (1) 積極的に取り組むことができた児童は、単元テスト等の成績が上がった。算数科では、思考力・判断力・表現力に関する力が伸びていた。社会科・理科では、知識・技能面の定着が高まった。特にAIドリルによる個別の習熟段階に応じた課題設定により、一人一人の課題に応じた学習ができる点が効果的であったと感じた。
- (2) ログを活用することによって、自分の得意分野や苦手分野を把握し、学習内容を自己決定しようとする姿が見られた。
- (3) 教員にとっても、プリントの準備と比較して圧倒的に負担感の軽減につながった。



連携担当

(部長)	伊藤 桃子	(副部長)	井口 健太郎	(書記)	池本 玲奈
(部員)	大石 裕也	安井 園未	須内 康雄	井上 桂誌	高橋 秀幸 堀野 真一

令和6年度 越知町連携教育推進委員会【徳】道徳・人権部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

社会の中で人としてよりよく生きていくための豊かな心をもった子どもの育成
～道徳の授業を通して～

2. 具体的な連携活動内容

- ・地域人材を活かした授業を公開し、参観、事後協議を行う
- ・アンケート調査を年間2回（5・6月と12月）に実施し、生徒の変容を見る

3. 組織構成

役割分担：公開授業の案内 小学校（内山 菜摘） 中学校（岡本 有生）

4. 活動経過

月	日	曜	内 容	活動・取組	場 所
5	1	水	テーマ設定・活動計画	今年度の連携テーマ、活動内容、評価指標等について協議	越知小
10	4	金	中学校道徳公開授業	地域人材を活用した授業	越知中
10	18	金	小学校道徳公開授業	地域教材を活用した授業	越知小
1	14	火	活動のまとめ	活動内容、成果と課題等について協議	越知小

5. 成果○と課題△（取組評価）

（1）地域人材を活かした授業を公開し、参観、事後協議を行う

①小学校 地域教材を活用した公開授業を行った。

○梅ノ木川の清掃学習と繋げたことで、現地で地域の方から実際にお話を聞くことができた。

○地元の自然環境を守るために、先人たちがどのような活動をしてきたのかを知ることができる地域教材であった。実際に清掃活動をする前に道徳で学習するというカリキュラムマネジメントも組み込まれていた。清掃活動に向けて意識を高めるのによい機会となった。

○越知小の活動を題材にしていることで興味関心を持って授業に取り組むことができた。

△カリキュラムマネジメントをして、下学年で学習を行うようにしたい。

△本時の学びを通して、自分達から清掃活動をしたいという意見が出てくる展開、発問ができればよかった。



- ②中学校 地域人材を活用した公開授業を行った。
- 専門的な視点からの話をしてもらえたことで理解が深まり、これからの行動をしっかりと考えることができた。
- 外部から講師が授業に入るのは、生徒たちにとっては新鮮な感じで良い。



○小学校では地域人材を十分に活用できていないので、見直すきっかけとなった。
 △打合せが不十分で、スムーズに進行できない場面があった。事前に模擬授業を行い、流れを確認した方がよい。

△授業を通して、生徒が変容した姿を見ることができなかった。ねらいにどのように迫っていくのか考える必要がある。

(2) アンケート調査を年間2回(5・6月と12月)に実施し、生徒の変容を見る

①小学校での評価指標：

- ・地域や社会への興味関心における質問項目の肯定的評価70%以上

「今住んでいる地域の行事やボランティア活動に参加している」

- ・行事に向けた意欲付けを図る取組を年に1回以上取り組む

○肯定的回答をした児童が76.5%(1回目)から、77.3%(2回目)と0.8%増えた。
 総合学習で地域に出て活動をしたことで、地域にも目をむける児童が増えてきたのではないかと考える。

△当項目での肯定的回答は増えていたが、同領域の「今住んでいる地域が好きである」の肯定的回答は95.6%(1回目)から90.9%(2回目)と減少していたので、地域に興味・関心を持てるような授業づくりを今後意識して行う必要があると考える。

②中学校での評価指標：

- ・自尊感情における質問項目「自分にはよいところがあると思う」の肯定群85%以上

※道徳アンケート調査2回(①9/2②12/23)で見取る

○肯定的回答をした生徒が71.6%(1回目)から、73.0%(2回目)と1.4%の上昇が見られた。道徳の授業を通して自分自身を肯定的に捉え、教職員からの声掛けや頑張ったことに対する価値づけ等の取組によるものだと考える。

△2回とも目標とする数値には12%ほど到達しておらず、自分の価値を実感できる環境を整え、ポジティブな人間関係を築き、成功体験を積んでいけるよう指導・支援を続けていく。

6. 来年度に向けて

今年度は、地域に目を向けた道徳の授業を中心にして活動を行い、お互いの様子を知ることができた。来年度は、道徳教育を通じて人権意識も併せて高めていくと共に「県民に身近な11の人権課題」について園小中で系統的な学習計画を立てることや人権学習の授業を公開し、ホームページやすぐー等で発信することなどに取り組んでいきたい。

連携担当

部長 岡本 有生 副部長 内山 菜摘 書記 壬生 博文

部員 村山 あかり、高橋 晴香、和泉 早姫、大崎 三佳、大原 真奈美、岡本 寧々、中野 聡美、堀野 真一

令和6年度 生活・体力向上部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

体力向上、生活習慣の確立に向けた小中連携を目指して

2. 具体的な連携活動内容

- ・小中合同体育 ・小学校公開授業研
- ・小中共通の生活アンケートの実施、分析
- ・ファインディングドックスとの連携による体力向上

3. 組織構成

- ・小中合同体育：上地 柿内 中須 近澤 足立
- ・小学校公開授業研：柿内
- ・ファインディングドックスとの連携：上地 中須
- ・小中共通の生活アンケートの実施、分析：須内 高橋 山中

部長 上地 平真（小） 副部長 中須 凌（中） 書記 柿内 創（小）
 部員 高橋 初枝（小） 須内 瑠璃（小） 改田 騎隆（小） 近澤 和司（中）
 足達 伸司（小） 山中 理代（中） 箭野 安美（委） 堀野 真一（委）

4. 活動経過

月	日	曜	内 容	活動・取組	場 所
4	19	金	体力テスト測定（中）	・8種目	中学校体育館
5	1	水	年間指導計画の作成	・組織作り	小学校
5	16	木	中学校公開授業	・中2「バスケットボール」	
5	21	金	体力テスト測定（小）	・8種目	小学校体育館
6	27	木	小中合同水泳授業	・小6・中1水泳授業	中学校プール
9	13	金	小学校公開授業	・小6・中3「ハードル走」	小学校運動場
9	7日間		生活アンケート（小）	・生活リズムチェック実施	各教室
9	24	金	小中合同授業	・小6「ハードル走」	中学校
11	4日間		生活アンケート（中）	・ヘルスポイント実施	各教室
12	25	木	生活だより（小・中）	・「メディア」「睡眠」についての通信発行	小学校中学校
1	17	金	1年間の活動まとめ	・1年間の振り返り・次年度に向けて	小学校
1	19	日	体力テスト測定（小）	・8種目	小学校体育館
1	23	木	体力テスト測定（中）	・4種目	中学校体育館
1	25	土	体力テスト測定（中）	・4種目	中学校体育館

5. 成果〇と課題◆（取組評価）

（1）小中合同体育

①小中合同水泳授業（授業者：中須）

○中学校の施設で、中学校の教員が授業を行うことで、小学生が来年度のイメージを持つことができ、中1ギャップによる不登校が少なくなると考える。また、中学生と小学生の交流で、中学校に入学後の人間関係作りが円滑になる。

◆水泳の授業に関しては、水深の調整や教員の増員等の配慮を行ったが、安全管理を徹底するためにより一層綿密な打ち合わせを行い、事故の防止に努める。



②小中合同陸上授業（授業者：上地）

○中学生は「具体的なアドバイスをロイロノートにまとめて6年生に送る」小学生は「アドバイスをもとに動きの改善をする」というそれぞれの学年に応じたねらいをもって授業実践を行うことで、児童生徒の意欲の向上が見られた。

◆計画的な取り組みができず、単発で終わってしまった。単元を通して計画することで、児童生徒が自身の成長や変化を振り返ることができる機会を設け、主体性の向上に向けてより効果的な実践にしていきたい。



（2）その他の取組

①公開授業（中学校：2年生「バスケットボール」）

○園小中すべての教員で参観した。その授業の中で、個別最適な学びと協働的な学びの活用場面についてchatを使用し、参観者の意見を即時共有できた。Chatを使用した授業方法や、即時共有した意見を各教科、自分の授業に活かすことができた。

◆Chatを使用した授業や、新たな授業の形を知り、より効果的な授業方法を見つけ、実践する。

②スポーツテスト

○年度初めには体力向上を目的とし、ファイティングドッグスの方を講師に招聘して取り組んだ。また、今年度は、年度初めと年度末に2回スポーツテストを実施し、さらなる体力向上の改善に努めた。

◆今年度はスポーツテストの実施のみに留まってしまった。来年度は、結果を受けて、連携部会としての体育の授業づくりを目指していきたい。

③生活アンケート

○生活アンケート実施後、結果について情報交換できたことで、小中共通の生活だよりを発行することができた。

◆家庭への周知が不十分だったため、取組の様子に差が見られた。小中の生活アンケートの実施時期を合わせて取り組むことで、家庭での生活リズムに対する意識向上を目指す。

④小中共通の「生活だより」の発行

○生活アンケートの結果、課題としてあがった「睡眠」と「メディア」について、児童生徒・家庭の生活リズムに対する意識向上をねらいとして、冬休み直前に小中共通の生活だよりを発行した。

令和6年度 園小接続部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

園小連携・接続における連続性のある指導・支援の在り方

2. 具体的な連携活動内容

- お互いの公開授業や保育を見合い、越知の子ども達の成長や課題を見る。
- 交流活動の打ち合わせ、当日の参加、振り返りを行う。
- 成果と課題の確認をして来年度に繋げる。

3. 活動経過

月	日	曜	内 容	活動・取組	場 所
4	30	火	スタートカリキュラム公開授業	1年生の公開授業参観・研究協議	小学校
5	1	水	幼小連携連絡部会①	テーマ・活動内容決めなど	小学校
6	5	水	こども園公開保育	5歳児公開保育参観・研究協議	こども園
7	29	月	園小中合同研修会	菅原裕子先生「子どもの心のコーチング」	町民会館
9	17	火	交流活動①の打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
10	16	水	交流活動①・振り返り	フラフープで仲良くなる	小学校
11	29	金	こども園公開保育	5歳児ブロック別研修会	こども園
12	2	月	交流活動②の打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
12	17	火	交流活動②・振り返り	昔遊び	小学校
1	14	火	園小連携部会②	今年度の成果と課題を持ち寄る	小学校
1	29	水	交流活動③ 打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
2	19	水	交流活動③・振り返り	一日入学・おもちゃフェスティバル	小学校
3	4	月	保幼小連絡会	年長児引継ぎ	小学校

4. 成果と課題（取組評価）

（1）成果

- 園児にとっては小学校に親しみを持ったり、入学後のイメージが付きやすかったりするため、準備の期間となっているように思う。
- 小学校の活動を園児に伝えることを楽しみ、見通しをもって意欲的にできた。
- 児童は交流することで、自分の成長を感じたり、お世話する等のコミュニケーションのとり方を学んだり、おもてなしをしたりする経験となり次の学年に向けての準備になっている。
- 回数を重ねるごとに相手意識をもった言動が見られ、交流活動の質の高まりを感じた。
- 交流活動での反省を活かし、子ども達に無理のない活動を決めることができた。

- 公開保育を見に来ていただき、話をする場があったので、こども園と小学校が互いのことを知るきっかけとなった。

(2) 課題

- 園、小学校ともそれぞれの時間がないので日程調整が難しく、昨年の後追いをすること一杯で、交流活動の持ち方等についてのブラッシュアップができない。
- 毎年の子どもの姿が違うので、課題も変わっていく。
- 互いの行事との兼ね合いもあるため、年間計画を把握し、見通しを立てる必要がある。
- 機材の確認をしておくこと。
- 各活動のねらいを小学生にもしっかりと伝え、ねらいを達成できる手立てが必要。
- 部会として目指す姿の共有や確認が必要。
- 小学校は、部会の担当が重なることもあり負担が大きくなったり、同日開催の場合は出席できなかったりする場合もある。

(3) 来年度に向けて

- 教育委員会は今年度、打ち合わせや振り返りに参加できていなかったため、活動の成果や課題を知るためにもできる限り参加する。
- 架け橋期カリキュラム作成に向けて、具体的な進め方を考えていく。

連携担当

(部長)	(副部長)	(書記)
田村 香	森 雪菜	岡林 美佳
(部員)		
矢野 有茶	隅田 澄子	西村 友宏
井手 裕子	片岡 鮎子	<役員の兼任可>

